

■第2回会議（5月27日）では、こんな話をしました

2月（昨年度）、行革ワーキングで市民活動団体を対象に行った「第2回アンケート」の結果を回答団体に報告するため、第1回会議に引き続きアンケートの集計方法について話し合いました。集計結果は、円グラフと棒グラフいずれで示すか、単位は「割合」か「数」のどちらがわかりやすいかなど、一読して分かる報告書となるように検討しました。また、各団体からの回答に書かれていた「他団体と協働することへの希望や具体的意見」を、より具体的に報告書に載せることで、行政が、団体同士をつなぐ協働コーディネーター的な役割を担うための方法などについて話し合いました。

今回から、ワーキングメンバーが「協働」について順番につぶやきます。第1回目のつぶやき人は、総務課の山口晋世しんよさんです。ぜひご一読ください。

【協働ってな～あに？その①】

協働についての疑問・質問に、“長にゃん”が明快に答えます。

ワーキングメンバーのつぶやき vol.①

つぶやき人：山口晋世（総務課）

今、私が担当している「長岡京ガラシャ祭」はまさに「協働」による事業だと思う。ガラシャ祭を実行する上で、関わっている団体は実に様々。「市民まつり」なので、各種市民団体はもちろん、商工会、警察、消防団、出演者、事務局を担う市などなど、数えだしたら何十もの団体になる。

例えば、行列のルートを確保するための交通規制は、当然警察でなければできないし、各種イベントを実施するには、その道を専門とする団体に依頼しなければならない。このように、様々な団体がそれぞれの専門分野を発揮して初めて、ガラシャ祭は成り立っていることになる。

もちろん課題も多い。というのも、関わる団体が金銭的報酬を得るわけではないので、手間に見合うだけの意義がないと「お願い」の世界になってしまうのである。報酬を伴うような協働もあると思うが、そうでない場合、難しいのはやはりこういう点なのかなあ…と、協働ワーキングの中で改めて感じた。



「協働」って言葉を最近よく聞くけど、何なの？



長にゃん

市内では、このまちのために一生懸命活動している人がたくさんいるの。その分野は子育て、福祉、まちづくり…と、さまざま。市役所でも、このまちのためにいろんなお仕事をしていますでしょ？もし、お互いが同じ目的をもっているなら一緒にやろうよ！と考えていくことが、協働するってことなのよ。



へえ～。一緒にやった方が、アイデアもたくさん浮かびそうだね。

* 次回の市民参画協働ニュースは7月下旬に発行予定です。

* 協働に対する疑問・提案・思いなどは、お気軽に下記までお寄せください。

メールアドレス：shiminsankaku@city.nagaokakyo.kyoto.jp